結核における リハビリテーションの現状

大西幸代†

IRYO　Vol. 77　No. 4（275－279）2023

【キーワード】高齢化，廃用症候群，空気感染，長期入院，隔離環境

要旨　結核は，主要な感染症であり，2021年の新登録結核患者は1万人を超えている．結核患者に占める高齢者の割合は年々増加しており，2021年の新登録結核患者に占める80―89歳の割合が29.9%と最も大きくなっている．結核では，2―3カ月の長期入院を余儀なくされ，空気感染のため隔離環境で療養することになる．高齢化が進むなか，隔離環境での長期入院は，廃用症候群の進行による日常生活動作（ADL）の低下をきたし，退院基準を満たした後でも元の生活環境に戻れない状況に陥ることが懸念される．そのため，結核におけるリハビリテーションでは，いかに廃用症候群を予防し，入院前ADLを維持できるかが重要と考える．リハビリテーションを行う上での留意点は，呼吸機能障害，化学療法における副作用である．呼吸機能障害がどの程度ADLに影響しているかを評価し，場合によっては在宅酸素療法（HOT）の導入を検討することになる．また，結核自体の症状や化学療法の副作用の症状により訓練が思うように進まないこともあるため，症状に応じた対応が必要となる．今後の課題としては，隔離環境での長期入院による認知機能低下やメンタルヘルス低下へのアプローチと考える．

結核とは

1．疫学

日本の結核罹患率（人口10万対）の推移は，1960―1970年代は順調に減少していたが，1980年代には減少傾向が鈍化し，1997年から3年連続で上昇したため，1999年には結核緊急事態宣言が発令された[1]．1999年の結核罹患率は34.6であり，その後は緩やかであるが減少を続けている（図1）．2021年の結核罹患率は9.2であり，罹患率10.0未満とする結核低まんえんの水準を初めて達成した．しかし，2021年新たに登録された結核患者は11,519人，結核による死亡数は1,844人（概数）であり，今でも主要な感染症には変わりない[1]．

結核患者に占める高齢者の割合は年々増加しており，2021年の新登録患者に占める80―89歳の割合が29.9%と最も大きくなっている（図2）[1]．

2．感染様式

結核は，空気感染によって伝播（でんぱ）する感染症の代表である．結核菌はヒトの体の中でしか生息できず，環境の中には存在しないため，感染はすべて感染性結核患者からの感染による．気道に病変のある結核患者（肺結核，喉頭結核，気管・気管支結核）が咳

国立病院機構近畿中央呼吸器センター　リハビリテーション科　†理学療法士
著者連絡先：大西幸代
e-mail：oonishi.sachiyo.an@mail.hosp.go.jp
（2023年5月11日受付　2023年6月9日受理）
Current Status of Rehabilitation in Tuberculosis
Sachiyo Oonishi. NHO Kinki-chuo Chest Medical Center
（Received May 11, 2023, Accepted Jun.9, 2023）
Key Words：aging, disuse syndrome, airborne infections, long-term hospitalization, isolated environment